

# 「研究と創造の精神」と「モノづくり」 トヨタが作り

Information of Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology

特集 「百年俯瞰」トヨタグループ発祥 100 年

Vol. 79



A1型試作乗用車完成式【1935(昭和10)年5月】



トヨタ産業技術記念館

# 百年俯瞰

トヨタグループが織り成す絆物語

第2回

## 《トヨタ自工の設立とトヨタグループの形成》

グループの共有理念として「豊田綱領」を制定し、製造許可を得て自動車事業への参入を果たし、グループの規模も拡大していきますが、やがて戦時統制経済に突入し、紡織事業が一旦、消滅。

グループ各社の業態も戦時体制を強いられることとなります。

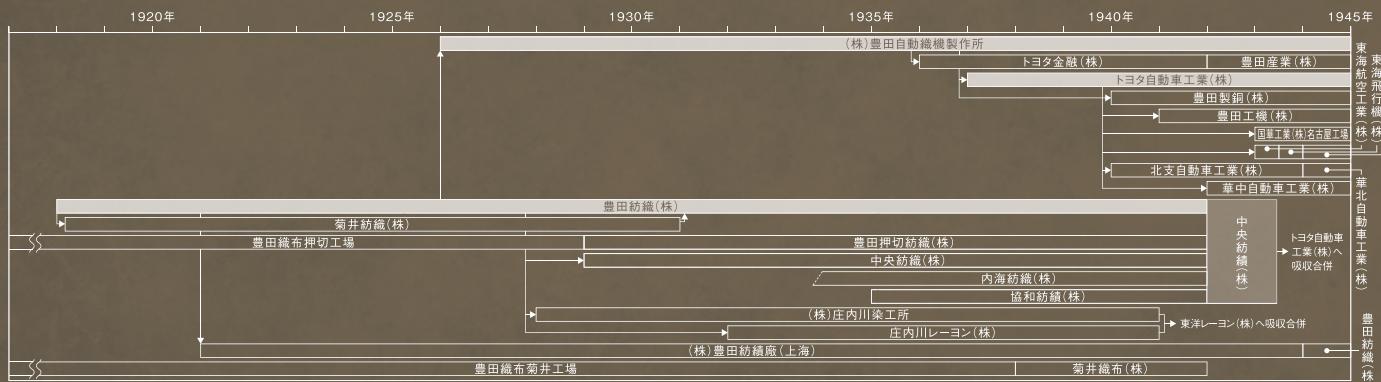
### グループ共有理念の制定と自動車事業への進出

(株) 豊田自動織機製作所(以下、(株) 豊田自動織機)は、1929(昭和4)年12月に締結されたプラット社への自動織機の特許譲渡の実績が後押しとなり、喜一郎が中心となって佐吉の夢でもあった自動車製造事業への進出を目指すこととなります。1933(昭和8)年9月に自動車部を開設。翌1934(昭和9)年1月には、自動車事業への進出を正式に決定し、同年3月には試作工場、同年7月には製鋼所が完成して、本格的に試作を開始。なお、試作工場の建物は、愛知製鋼(株)刈谷工場敷地内に現存しており、2018(平成30)年7月から「トヨタ創業期試作工場～クルマ

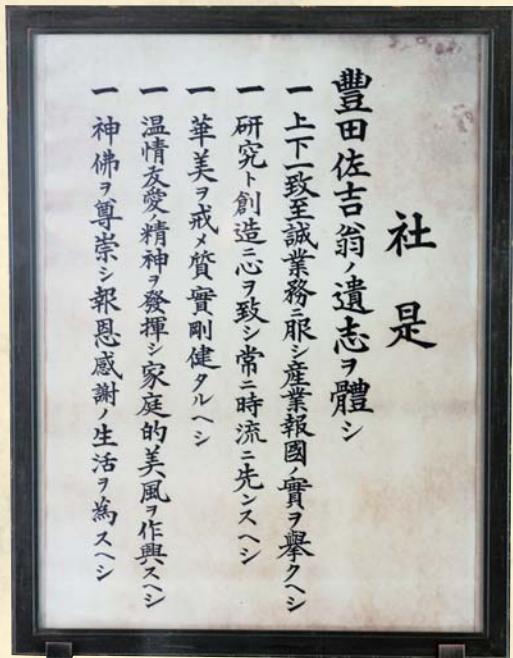
づくり出発の地～」として一般公開します(詳細は7頁参照)。

1935(昭和10)年5月には、A1型試作乗用車の第1号を、同年8月には国からの要請もあり、自動車製造事業法の施行を念頭にG1型トラックの試作第1号を完成させました。そして、同年11月にG1型トラックを発表し、同年12月8日には、日の出モータース(株)【現 愛知トヨタ自動車(株)】が、「国産トヨダ号」としてG1型トラックの販売を開始。その後、約1年間で合計7社のトヨダ販売店が誕生しました。

また、佐吉の5回目の命日にあたる同年10月30日には、豊田系各社の結束を図る目的で「豊田綱領」を発表、各社の従業員が佐吉の精神を受け継ぎ、日常の心構えとすることとしました。トヨタグループ各社の基本理念には「豊田綱領」の基本的な考え方があ



トヨタグループの系譜図(～1945年終戦時)



豊田紡織(株)や(株)豊田自動織機の社是ともなった  
「豊田綱領」

反映されており、その精神は姿と形を変えながら着実に受け継がれていきます。

1936(昭和11)年4月、(株)豊田自動織機はA1型の量産型としてAA型乗用車の生産を開始すると、同年5月には、それを組み立てる刈谷組立工場(自動車組立工場)を完成させます。同年9月19日には、(株)豊田自動織機は日産自動車(株)とともに自動車製造事業法に基づく「自動車製造事業許可会社」となります。自動車事業に進出するためには、巨額な資金が必要でした。この資金を賄うため、(株)豊田自動織機は同年10月までに3回増資を敢行し、資本金900万円としました。

1937(昭和12)年3月15日から5月31日まで開催された名古屋汎太平洋平和博覧会(延べ約480万人来場)では豊田系会社

は「トヨタ館」として共同展示し、対外的に「トヨタ」グループをPR。トヨタ館には前年に生産開始したトヨダAA型乗用車も展示し、グループとして自動車事業に進出したことを示す絶好の機会となりました。

しかし、博覧会閉会からわずか2ヵ月後の7月には、日中戦争が勃発し、トヨタグループは戦争に翻弄されていくこととなります。

## トヨタ自動車工業(株)の設立

新工場建設は資金調達力を超える金額だったため、1937(昭和12)年8月28日、(株)豊田自動織機は、自動車部門を分離独立させ、トヨタ自動車工業(株)【以下、トヨタ自工(株)、現トヨタ自動車(株)】を設立しました。トヨタ自工(株)は、(株)豊田自動織機から製造設備や従業員など自動車事業に関わるすべてのものを譲り受け、新たな分野への第一歩を踏み出しました。

1938(昭和13)年11月3日には、トヨタ自工(株)挙母工場(現トヨタ自動車(株)本社工場)が完成し、月産2000台の本格的な自動車製造一貫工場が操業しました。

「我々のトヨタ丸は『廉価で優秀な車の製造』という旗印を立てて、嵐の海に出帆するのであります」\*

自動車事業責任者であった喜一郎は、挙母工場完成に際し、こう決意表明しています。

また、日本GM社副支配人だった神谷正太郎を招聘、販売拠点も整備し、1939(昭和14)年末には、ほぼ全国を網羅する44の販売店が設置され、今日のトヨタ系自動車ディーラー網の基礎が形成されたのです。

\*出典:「流線型」1937(昭和12)年10月



自動車部試作工場【現 愛知製鋼(株)刈谷工場敷地内】  
1934(昭和9)年



トヨタ自工(株)挙母工場【現トヨタ自動車(株)本社工場】全景  
1938(昭和13)年11月3日竣工

## 豊田製鋼(株)の誕生

挙母工場も完成し自動車事業への本格的な進出を果たしたトヨタ自工(株)は、喜一郎の「自動車、製鋼と工作機械が『三位一体』で進まなければ、国産車製造はおぼつかない」という信念に基づき、製鋼事業、工作機械事業にも進出します。そしてここから、トヨタグループの中核を担う企業を誕生させていきます。

豊田製鋼(株)【現 愛知製鋼(株)】と豊田工機(株)【現(株)ジェイテクト】がそれです。戦時経済統制が一段と強まり、自動車生産に不可欠な鋼材や工作機械の調達がますます困難になってきたため、製造部門の整備拡充を図る目的で分離独立させることにしたのです。

「(前略)この豊田製鋼会社の使命とするところは、(中略)  
マシナビリティ(切削性)とデュラビリティ(耐久性)の良い鋼  
を作り、以って自動車事業本来の多量製作を材料方面から  
援助し促進し、わが国自動車事業の確立を図る目的である。  
この基本問題が解決して、初めて日本の自動車工業も本格  
的軌道に乗る次第であると確信する」<sup>※1</sup>

これは、豊田製鋼(株)の設立にあたって未来を展望した喜一郎の言葉です。当時、トヨタ車の生産増に伴い、(株)豊田自動織機製鋼部への依存が高まっており、刈谷の工場用地では限界がありました。そこで、「製鉄事業法」許可会社の恩恵を活かすため、知多(現 東海市)に新工場を建設。1940(昭和15)年3月8日、(株)豊田自動織機から製鋼部を分離独立させ、豊田製鋼(株)を設立したのです。

## 豊田工機(株)の誕生

「工作機械は、あらゆる機械工業の原動力である。自動車工業、航空機工業には、この工作機械、特に専用工作機械が大きなウェイトを持つ。いうなれば機械工業発展の鍵は、工作機械の育成にある。したがって、自動車工業を発展させるには、何をおいても大量生産ができ、そして精度の高い専用工作機械が必要である。これをいたずらに外国に依存することは、わが国工業の発展のために好ましからざるところである」<sup>※2</sup>

喜一郎は、豊田工機(株)の設立に際し、工作機械の重要性を説きました。1937(昭和12)年6月(株)豊田自動織機内に自動車部工機工場を建設、その後、1938(昭和13)年11月、挙母工場に工機工場が移転、稼働し、大量生産用の専用工作機械の開発・製作を担っていました。そこで、「工作機械製造事業法」に基づき、1941(昭和16)年5月1日、豊田工機(株)を設立したのです。本社・工場は挙母の工機工場にありましたが、1942(昭和17)年6月には刈谷の自社工場が完成しました。

## 戦時統制経済の中で紡織事業が一旦、消滅

日中戦争勃発後、翌1938(昭和13)年4月には国家総動員法が公布され、統制経済が強化されていました。1941(昭和16)年7月には、米国および英国が日本の在外資産を凍結することを決定し、日本の輸出入は途絶します。これは、輸出に大きく依存していた紡織事業にとって特に深刻で、紡織業界は整理統合



豊田製鋼(株)【現 愛知製鋼(株)】

1940(昭和15)年3月設立



豊田工機(株)【現(株)ジェイテクト】

1941(昭和16)年5月設立

の嵐に見舞われます。同年8月には50万錘の規模に達しない紡績会社は統合されることとなり、1942(昭和17)年3月11日、豊田紡織(株)と、関連会社である豊田押切紡織(株)、中央紡織(株)と東洋棉花の傘下にあった内海紡織(株)、協和紡績(株)の計5社の紡績会社は合併し中央紡績(株)を設立。グループ発祥の会社である「豊田紡織」の名称は消滅することとなりました。

1943年1月、国から航空機用エンジンの製造を要請されたトヨタ自工は、これに応えるべく、同年11月3日、中央紡績(株)を吸収合併して中央紡織の資源を活用し、軍需工場に転用します。戦時下の統制経済の中、グループから創業以来の紡織事業が一旦、消滅することとなります。

## 戦時下のトヨタグループの変容

自動車の月賦販売を行っていたトヨタ金融(株)<sup>※3</sup>(現 豊田通商(株))も、自動車販売そのものが大幅な制約を受けたため、事業目的を変え実質的にグループの持ち株会社となっていました。そして、1942(昭和17)年4月30日には、トヨタ金融(株)から豊田産業(株)へ改称し、グループ全体を束ねる存在となります。

さらに、航空機の増産が国家的な急務となり、1942(昭和17)年6月、トヨタ自工(株)は陸軍航空本部から川崎航空機工業(株)と合弁で航空機用エンジンを量産する新会社を設立するよう、要請されます。翌1943(昭和18)年2月18日、トヨタ自工(株)から航空機部を分離独立させ、川崎航空機工業(株)との共同出資により東海航空工業(株)<sup>※4</sup>を設立します。しかし、1944(昭和19)年12月の三菱重工業名古屋発動機製造所は空襲で

大きな被害を受けたため、工場疎開先として東海飛行機挙母工場が選ばれました。東海飛行機(株)で生産予定だった航空機用エンジンの生産は見送られ、トヨタ自工(株)の刈谷北工場(現(株)デンソー本社敷地内)で生産していた練習機用エンジンの部品生産を行なうだけになりました。

続いて、1943(昭和18)年5月、トヨタ自工(株)の刈谷工場ゴム課が国華工業(株)<sup>※5</sup>と統合され、国華工業(株)名古屋工場【現 豊田合成(株)】となります。これは、戦局の悪化により原料ゴムの入荷が難しくなってきたため、「企業整備令」により商工省から勧告を受けて統合されたもので、製造設備は遊休状態となっていた菊井織布(株)へ移動して、同社の建物と従業員を引き継ぎました。

そして、1943年(昭和18)10月軍需会社法が公布され、1944(昭和19)年1月トヨタ多くの企業とともに指定され、喜一郎たちの経営権も奪われていきました。1945(昭和20)年8月14日、挙母工場が空襲を受けて4分の1が破壊されます。翌15日、復旧作業を行っている中で終戦を迎えることとなるのです。(第80号 第3回につづく)

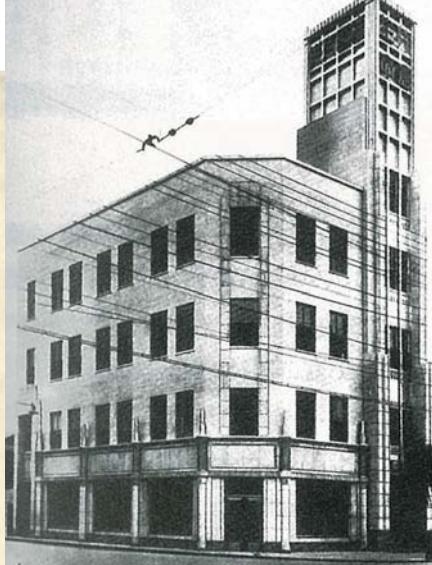
※1 出典: 愛知製鋼75年史

※2 出典: 豊田工機50年史

※3 トヨタ金融(株) 1936(昭和11)年10月31日に自動車の月賦販売を扱う会社として設立。初めて「トヨタ」を冠した会社。(9頁参照)

※4 東海航空工業(株) 現 アイシン精機(株)、1943(昭和18)年4月8日に東海飛行機(株)に改称。

※5 国華工業(株) 喜一郎の妻・二十子の実家である飯田家の創業による商事会社・高島屋飯田が出資しているゴム会社。



トヨタ金融(株)が最初に入居した  
福寿ビル(名古屋市中区)  
(1936年(昭和11)年10月)



衣が原飛行場における13式練習機とAA型乗用車



国華工業(株)名古屋工場【現 豊田合成(株)】  
1943(昭和18)年

## 纖維機械

### 「工程の合理化を実現した、スーパーハイドラフト リング精紡機」

粗紡工程<sup>\*</sup>と精紡工程<sup>\*</sup>を一つにすることで、糸づくりの大幅な効率アップを可能にした画期的な機械です。※〈糸づくりの工程〉④、⑤参照



綿糸づくりは、原綿の纖維を解きほぐし不純物を取り除いて、1本1本の纖維を平行に揃えてスライバー（太い紐状の纖維束）をつくった後、それを引き伸ばして撚りをかけていきます。通常、混打綿、梳綿、練条、粗紡、精紡の工程を経て行われますが、粗紡工程と精紡工程の2回に分けて行っていた引き伸ばしドラフト工程を、一度に行えるようにしたのが、スーパーハイドラフト リング精紡機です。

紡績工程の合理化を実現するため、喜一郎の発案により開発が始まり、1937（昭和12）年に完成しました。独自に開発した4線式ドラフト装置を採用することによって、引き伸ばし倍率を従来の20～30倍から、一気に100倍に高めることに成功。これが「スーパーハイドラフト」と呼ばれる所以です。その結果、粗紡工程を全廃し、練条スライバーを直接精紡機に供給して糸づくりを行うことができるようにした、画期的なものです。

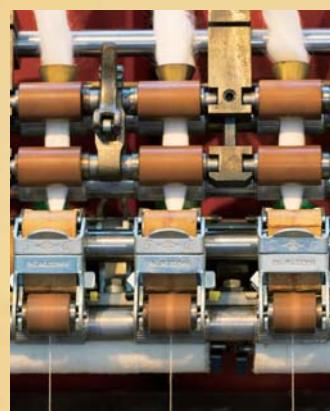
また、練条スライバーを直接精紡機に供給するため、スーパーハイドラフト専用の練条機も特別に開発。スライバーを収納するケンス（筒状の入れ物）を小型化するとともに、スーパーハイドラフト リング精紡機は、省スペース、生産効率の高さから重宝されました。戦時中も規制品から外されるとともに戦後、モノがない時代には一躍脚光を浴びましたが、戦後の生活が安定し高品質のニーズの高まりとともに徐々に姿を消しました。

#### 〈糸づくりの工程〉

- ①混打綿 …… 堅く梱包された原綿の纖維をほぐし、実かす、葉かす、不純物を取り除くとともに、綿を元の柔らかい状態に戻して、厚さの整ったシート状のラップをつくります。（現在では、ラップはつくれず、ダクト連結して送風機で綿を梳綿機に送るのが一般的です）
- ②梳綿（カード）… シート状にした綿をさらに解きほぐし、1本1本の纖維に分離した後、平行に揃え、短い纖維や不純物を取り除き、カードスライバーをつくります。
- ③練条 ……… 複数本のカードスライバーを合わせて引き伸ばし、太さを均一にするとともに、纖維の平行度の良い練条スライバーをつくります。
- ④粗紡 ……… 練条スライバーを引き伸ばし、徐々に細くして、わずかに撚りをかけた粗糸にして木管に巻き取ります。  
(古くは、始紡、間紡、練粗紡、練紡などの2～4工程でしたが、現在は粗紡の1工程のみ)
- ⑤精紡 ……… 粗糸を引き伸ばし、撚りをかけて所要の太さの糸にして木管に巻き取り、糸の完成です。



【通常の精紡機】  
粗糸から糸をつくります

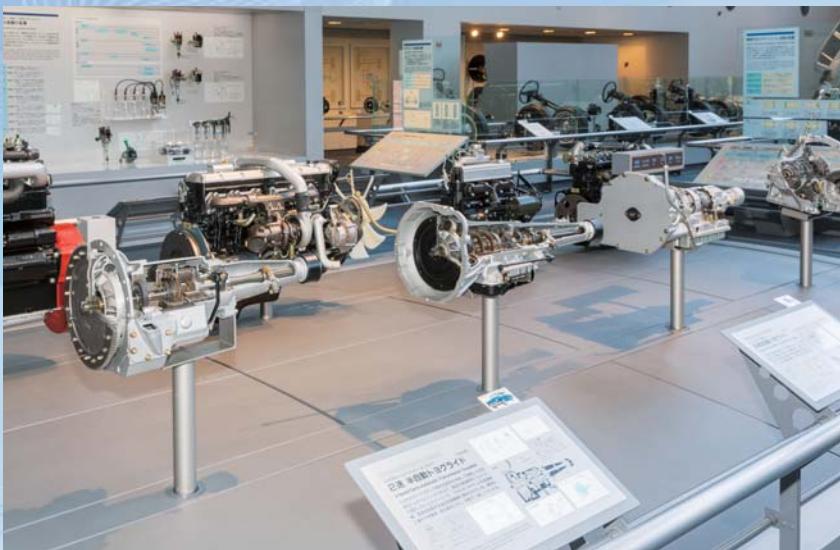


【スーパーハイドラフト リング精紡機】  
練条スライバーから一気に糸をつくります

## 自動車

### 「時代とともに進化するオートマチックトランスミッション」

自動車館の展示の中から、今回はオートマチックトランスミッション（以下、AT）の進化について紹介します。



#### 〈トヨタ車搭載のATの変遷〉

1959年	トルクコンバーター付き半自動2速AT【日本初】
1963年	全自動2速AT【日本初】
1967年	全自動3速AT【トヨタ初】
1977年	オーバードライブ付き4速AT【世界初】
1980年	ロックアップ機構付き4速AT
1981年	マイコンによる電子制御4速AT(ECT-i)【世界初】
1991年	5速AT
2003年	6速AT【日本初】
2006年	8速AT【世界初】
2017年	10速AT

「トランスミッション技術の変遷」コーナーでは、トヨタが1959（昭和34）年に発売した最初のAT「半自動2速トヨグライド」を展示しています。1950年代、すでにアメリカではATが急速に広まりつつある頃に、トヨタは開発をスタートしました。それが何よりも大変だったのは、1500ccクラスの小型車に搭載しなければならなかったこと。つまり、非力なエンジンに小さな車体という、アメリカ車とはまったく違う要件へのチャレンジが必要だったのです。そのために、さまざまな仕様のトルクコンバーター（以下、トルコン）を作っては評価し、改良を繰り返してATを完成させました（当時はトヨグライドという商品名でした）。通常はセレクトレバーをDレンジに入れておけば、発進から巡航まで、レバー操作がいっさい不要な“イージードライブ”を実現することができましたが、急坂を上るようなシーンでは、わざわざ手動でローレンジに入れ直す必要があったため「半自動」と言われました。現代でこそ、アクセルを強く踏み込めば自動的に低いギヤに切り替わります（キックダウン）が、当時はまだそこまでの技術がなかったからです。しかし、ここからトヨタのAT技術が進化を始めます。

次の開発目標は、より小型化することと、完全自動化を実現すること。前者については、この後、3年で一段と小さな700ccのパブリカへの搭載を実現させます。また、後者を実現するには、車速やアクセルペダルの開き具合を検出することが必要となります。現代のようなセンサー類はありませんから、機械的な工夫でそれを検知することにより、最初の半自動ATから4年後の1963（昭和38）年に、日本で初めて完全自動化を完成させます。

その後、オイルショックを経て、低燃費化を図るためにエンジン回転数を抑えるべくオーバードライブ付き4速ATを世界で初めて発売、その2年後には、トルコン特有のスリップロスをなくすために、ギヤを直結する機構を開発。また、世界で初めてマイコンを使い、細かく変速を制御するATを開発し、一層の低燃費とスムーズな走行性能を実現しました。その後、5速・6速・8速と進化し、最新型レクサスではついに10速ATが登場しました。こうしてAT技術は、時代のニーズに合わせ進化してきたのです。

# INFORMATION

## トヨタ創業期試作工場～クルマづくり出発の地～



〈事前申込制〉

・7月18日から一般公開  
(6月1日からホームページにて予約開始)



1933(昭和8)年9月1日、愛知県刈谷の(株)豊田自動織機製作所内に自動車部が立ち上りました。関東大震災からちょうど10年にあたる日でした。翌1934(昭和9)年3月には、板金・組立工場、機械・仕上工場、倉庫、材料試験・研究室で構成される試作工場がこの地に完成しました。

「自分たちの手でクルマをつくり、日本に自動車事業を興し、人々の生活を豊かにしたい」

この志のもと、先人たちは、まずクルマの「走る・曲がる・止まる」機能を満たす鉄の研究から始めました。そして、エンジン試作では、シリンダーブロックの鋳造で不良品の山を築き、ボディパネルは板金手叩きと、試行錯誤の末に、A1型試作乗用車、G1型トラックを完成させたのです。

試作工場の建物は、愛知製鋼(株)刈谷工場敷地内に現存しており、創業時の姿を体感いただく場として修復保存することが決定。このたび「トヨタ創業期試作工場～クルマづくり出発の地～」として7月から一般公開することとなりました。国産自動車に賭けた先人たちの思いを感じていただければ幸いです。

### 利用案内

見学は事前申込制です。

開館時間	10時～17時	見学料金	無料	見学時間	30分
見学方法	事前申込制 6回／日(10時、11時、13時、14時、15時、16時) 最大50人／回(50人／回以上での見学を希望の場合はお問い合わせください。)				
休館日	土曜・日曜・祝日及び、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業 (詳しくはホームページを確認ください。)				

### 見学の申し込み (6月1日開始)

ホームページから申し込み ▶ <https://k.tcmiit.org/>  
申し込みフォームに必要事項を入力の上、送信ください。



FAXでの申し込み ▶ 0566-29-4152

ホームページから申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、送付ください。

### 問い合わせ

トヨタ創業期試作工場 受入グループ

0566-29-4151 〔電話受付時間〕開館日の9時～17時 k.tcmiit.ukeire@he.aichi-steel.co.jp



所在地：〒448-0848 愛知県刈谷市豊田町3丁目6番地(愛知製鋼(株)刈谷工場敷地内)  
【公共交通機関】JR東海道線「刈谷駅」／名鉄三河線「刈谷駅」下車。徒歩15分

## VIRTUAL FACTORY TOUR

クルマの製造過程を映像で紹介するコーナーをVIRTUAL FACTORY TOURとして完全リニューアル。

トヨタ自動車東日本(株)で製造している2015年発売の「シエンタ」を例に、プレス・溶接・塗装・組立・検査工程を臨場感のある音と映像でご覧いただけます。また、ブース内の壁面には生産ラインの写真を装飾してありますので、一層の臨場感を感じていただけると思います。



**開館記念特別イベント**

# ハリカリ カイ-カエント

入場料 無料

2018年6月10日(土・日)

布を織るってどうやるの?実際に体験してみよう!  
手織り体験!タペストリーづくり

2018年6月11日に開館24周年を迎えるトヨタ産業技術記念館では、皆様への感謝の気持ちを込めて特別なイベントを開催!是非、ご家族そろってお越しください!

\*当日は駐車場が大変混雑いたします。  
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

走行披露

同乗試乗会

トヨダAA型乗用車  
トヨダG1型トラック

初代クラウン  
初代セリカ  
初代カローラ

ラリーシートがペーパークラフトになってるよ!  
ゴールでつくってみよう♪  
たんけん!スタンプラリー

特別ガイドツアー  
「産業遺産を巡る」

## 夏休み 発見☆体験ミュージアム

開催期間

8月18日(土)・19日(日)

7月21日(土)～9月2日(日)は  
夏休み期間中 小学生入場無料

# Topics

トヨタ産業技術記念館のできごと

2018年1月20日(土)～3月11日(日)

### 竹中大工道具館巡回展 「千年の薦 古代瓦を葺く」

古代瓦の作り方、葺き方について建築の切り口から展示・解説した企画展を開催しました。

会期中は関連イベントとして、高浜市やきものの里 かわら美術館の主催による鬼師による鬼瓦製作実演も3回開催し、職人の心意気に触れることができました。



2018年3月31日(土)・4月1日(日)

### 「春休み 発見☆体験ミュージアム」

小中学生を対象にした春のモノづくりイベントを大ホールにて開催しました。LED電子回路で光らせる「絵が光る★ペンスタンドをつくろう」など3つのプログラムでお客様に楽しんでいただきました。



2018年4月13日(金)

### La Festa Primavera 2018

クラシックスポーツカーの魅力を伝え、歴代の名車が次世代へ継承されることを願い今年も熱田神宮からスタート。当館は昨年同様、2か所目のスタンプポイントとして協力。堺正章さんも参加され、名古屋市の河村市長や名古屋おもてなし武将隊の前田慶次さんも駆けつけていただき、大変盛り上がりました。



# 館内隠れ スポット紹介

vol.  
2

トヨタグループ館/豊田商会担当  
加藤 みゆき



## 豊田商会



佐吉は、1902(明治35)年、豊田商会を立ち上げ究極の目標とする自動織機と環状織機の発明、研究に専念します。この建物は、1905(明治38)年に建築され、その後、豊田式織機(株)【現 豊和工業(株)】に発展的に改組され、本社社屋として使用されてきました。この記念すべき産業遺産を1994(平成6)年に譲り受けて、当館に移転、修復しています。

\*トヨタグループ館受付で申し出頂ければ開錠いたします。  
ぜひ、内部もご覧下さい。

### SPOT 1 「天馬無限」挿絵集



この建物は、1905年に島崎町工場を新設した際に建築。一般公開している1階は事務所で、現在は1986年1月1日から1987年2月28日まで中日新聞朝刊に連載された小説・豊田佐吉「天馬無限」の挿絵集を展示しています。

### SPOT 2 2階 廊下\*



階段を上がった2階。まっすぐ伸びた廊下の両脇に大小の和室が並び、床の間付きの部屋もあります。

\*通常、非公開ですが、今回は特別に写真で紹介します。

### SPOT 3 2階 居室\*



佐吉は、住居兼研究室としてここに住まい、豊田式三十九年式織機、環状織機などを発明しました。研究と創造に没頭していた佐吉の息づかいが聞こえてきそうです。

## 復刻かわら版 vol.5

### 「トヨタニュース」

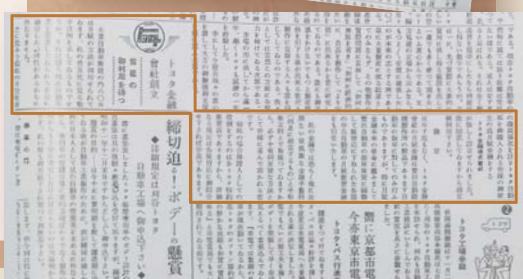
第10号 1936(昭和11)年11月21日発行2頁目

#### トヨタ金融会社創立 皆様の御利用を待つ

大衆自動車販売の内、80%は月賦の方法が利用されています。この普及化に見る数字は何を示しているものでしょうか？それは即ち現在自動車業を営業しておられる各位に適合した合理性があるからに外なりません。

これに鑑み、今般この月賦販売の徹底強化を計りトヨタ自動車をご購入される皆様の御便宜のため、月賦金融をするトヨタ金融株式会社を新しく設立しました。(後略)

**解説** 同社は(株)豊田自動織機製作所から分社化し、その後、豊田産業(株)、日新通商(株)を経て1956(昭和31)年、豊田通商(株)となりました。 \*言葉づかいは、一部、修正しています。





## トヨタ産業技術記念館 公式メモリーブック

当館のガイドツアーのポイント、メイン展示物の解説、スタッフの様子など「もっと知りたい!」をギュッと詰め込んだオリジナルな1冊。構成は映画パンフレットに見立て、新規に撮影・編集しました。全52頁、A4版、フルカラー、定価800円(税込)。日本語版に続いて、英語版と中国語簡体字版も制作予定。当館ミュージアムショップ限定の販売です。当館の思い出に、ぜひ、手に取ってみてください。



The Birthplace of TOYOTA

ここ先はトヨタグループ発祥の地。  
現在の豊田自動織機も、トヨタ自動車も、産声を上げたのはこの地です。  
先人たちがここを出発点に何を考え、何を積んだのか、そしてどんなモノが残されたのか。  
トヨタ産業技術記念館は「研究と創造の精神」と「モノづくり」の大切さを次世代に伝える場所です。

## 私のこだわり vol. 2

### テーマ 保全



満開の桜、蝉の声、黄色に染まった銀杏並木、雪景色…バス駐車場横のベンチに座り、そうした季節の移り変わりを感じることが、私の毎朝の日課となっております。私の思いは、当館のエントランスに設置されたシンボルである環状織機のように「環境にやさしい記念館でありたい」というものです。具体的には、来館者数が開館当初から4倍相当、年間46万人を超えるまでに増加したお客様へのおもてなしと省エネの調和です。これまでに、海外の来館者から要望の多い名古屋フリーWi-Fiを3カ所に設置。



また、建物設備面では、高効率の空調機への更新、照明器具のLED化、暑熱対策など省エネ活動を進め、2017年は対前年比で年間電力量4.7%低減、CO<sub>2</sub>の削減を図ることができました。その一方で、残された課題もあります。敷地内の乗用車駐車場、自動二輪・駐輪場の増設、また、ITVカメラ充実による空スペースへの誘導体制、1日の来館者が3千人超え時の対応、施設の老朽化に対する修復工事などです。



今年は、ムスリム礼拝場を設置する予定です。将来は、水素ステーション・EV充電設備も整備していけたらと思っています。今後も、お客様からご意見をいただきながら、より多くのお客様が気持ちよく見学でき、「環境にやさしい記念館」を目指して改善を積み重ねていきたいと思います。

保全担当  
堀田 公二

# INFORMATION

都合により、変更させていただく場合がございます。詳しくはトヨタ産業技術記念館までお問い合わせください。

## 週末 Workshop ワークショップ

次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる各種プログラムを用意しています。ぜひご参加ください。

他、多数プログラムを開催

受付  
期間

7月開催分

6/1(金)～6/13(水)

8月開催分

7/1(日)～7/12(木)

参加申し込みはホームページから

トヨタ産業技術記念館

検索

参加費 500円(入場料別途必要) 問い合わせ 052-551-6003

参加希望者が定員を上回る場合、抽選となります。詳細はホームページをご覧ください。



7/  
**22**日

竹水てっぽうを  
つくろう

8/  
**25**土

ガラスモザイクで  
アクセサリーづくり

8/  
**4**土

キミのスマホを高級オーディオに!  
小型ヘッドフォンアンプの  
製作でモノづくりの歓びを!

8/  
**21**火

LED電子工作★  
光るねこアクセサリー作り  
&プログラミング体験!

### ミュージアム ショップ



横型トートバッグ エアバッグバッグ  
1,430円(税込) 2,800円(税込)

### 図書室 体験教室 連鶴をおろす!

- 7/28(土) 1日2回(13:00～14:00、15:00～16:00)
- 当日先着20名/回 ●対象は小学生以上、大人の参加も歓迎
- 江戸時代から続く伝統的な折り方を習って、1枚の和紙で連なった鶴を完成させましょう♪



### 図書室 絵本をつくろう!

- 8/25(土)、26(日) ●当日先着100名/日
- どなたでも参加いただけます。
- 雑誌を切り抜いて貼って自分だけの絵本をつくりましょう♪



### 「赤れんが便り」読者アンケートにご協力ください!

当館では、より魅力的な「赤れんが便り」を目指し、読者アンケートを実施いたします。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「PILOT製オリジナルシャープペン」をプレゼントいたします。

- アンケートは、パソコン、スマートフォンからご回答ください。  
<https://www.tcmiit.org/form/180601survey/>



### RESTAURANT Brick Age

レトロでシックな赤れんがの空間で、  
シェフが腕を振るったメニューをお楽しみいただけます。



鶏・豚・野菜の3種類からご用意致します

ティータイム  
限定メニュー  
(14:00以降)



ドライフルーツ入り紅茶「フルーティ」 380円(税込)

【営業時間】11:00～17:00(16:30ラストオーダー) 【TEL】052-551-6243

\*当館ホームページには現在のメニュー情報や団体様用お弁当情報など、詳しく記載しております。  
※17:00以降は貸切パーティも可能です。ご予算や内容など、ぜひご相談ください。

### ご案内

- 開館時間／9:30～17:00(入場受付は16:30まで)
- 休館日／月曜(祝日の場合は翌日、但し、8/13(月)は開館)、年末年始
- 入場料／大人500円・中高生300円・小学生200円
- 団体割引あり
- 学校行事での入場は半額(小学生・引率の先生は無料)
- 65歳以上の方は無料
- 障害者手帳をお持ちのご本人とその付添の方1名は無料

### 交通

- 名鉄／名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーラー」／名古屋駅バスターミナル11番のりば 「トヨタ産業技術記念館」(敷地内)下車すぐ
- 「名古屋駅」からタクシー利用で5分
- 無料駐車場(乗用車220台、大型バス10台)



**トヨタ産業技術記念館**   
〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号  
TEL:052-551-6115 FAX:052-551-6199

フォロー募集中!



Webサイトは  
こちら!  
<http://www.tcmiit.org/>

